

2022年度

ラインジャッジ マニュアル

2022年2月11日 発行

公益財団法人日本バレーボール協会

審判規則委員会 指導部

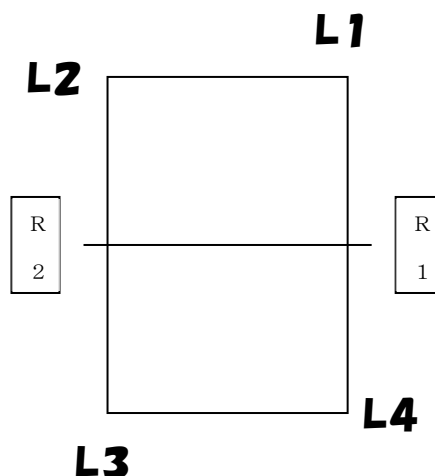
『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

- (1) 試合開始1時間30分前までには、競技場に集合すること。
- (2) 競技場に集合したら、コート等の設営や試合に必要な用具等のチェックに積極的に協力すること。
- (3) 試合60分前にレフェリーミーティングが行われるので、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラー、アシスタントスコアラー、ボールリトリバー、モッパーと綿密に打ち合わせを行うこと。
- (4) レフェリーミーティングには、レフェリーウェアで参加すること。胸には自分の公認された資格のワッペンを付けること。
- (5) レフェリーミーティングの前にラインジャッジは、誰がどのラインを担当するのか、また試合中のいろいろと起こるケースに対してどのような動き方をしたらいいのか、どのようにお互いに協力をしていくのかを事前に打ち合わせをしておくこと。特に、ファーストレフェリーに見えにくい所や、アンテナ外通過、フライングレシーブで床にボールが落ちたかどうか、ブロッカーやレシーバーのボールコンタクトがあった際の出し方等をよく打ち合わせておくとうい。
- (6) フラッグの点検をする。
- (7) 試合開始30分前には、スコアラーズテーブル後方に集合すること。
- (8) 公式ウォームアップ中、担当ラインの延長線上で、目慣らしをするとよい。
- (9) 公式ウォームアップが終了したら、担当の位置につき、ネットやアンテナが正しい位置に取りつけているかどうかチェックする。特にアンテナの取り付け位置については、ゲーム中でも十分注意する。

2. 試合中

《図 1》



(1) ラインジャッジの位置

- ① 自分の担当するラインの想像延長線上でコート
の各コーナーから 2 m 離れ、ラインを身体の中
心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリ
ーズゾーン内に立つ。エンドラインはライトサイ
ドのコーナーから「L 2」・「L 4」が、サイドライ
ンはレフトサイドのコーナーから「L 1」・「L
3」が統御する。(図 1)
- ② レフトサイドからのサービスの時は、サーバー
の妨害にならないように、サイドラインの延長線上、サーバーの後方に移動
し位置する。その際、サーバーのフットフォルトの有無に注意するため、横
には開かない。

(2) ラインジャッジのフラッグシグナル

- ① 起きた反則を確実に判定し、速やかにフラッグシグナルを示す。ファース
トレフェリーは、そのシグナルを確認して最終判定を示す。
- ② フラッグのポールに人差し指を添えてポールを握り、ひじが曲がらないよ
うにまっすぐにフラッグを出す。まず構えた姿勢で判定を行い、すばやく姿
勢を正してフラッグシグナルを示す。
- ③ 姿勢については、アウトオブプレー時は自然体でリラックスして立つ。ま
た、サーバーがボールを打ってからは、移動しやすい低い姿勢をとり、目の
位置を下げ、身体（腰）でボールを追う。目の位置が高いとボールを上から
見ることになり、ボールと床の接点が死角となり、ボールがラインにふれて
いるか明瞭に判定できない。低い姿勢が必要なときとそうでないときの区別
をつける。サーバーがサービスゾーン後方から打つ時は、サーバー側のエン
ドライン担当のラインジャッジは、低い姿勢をとる必要はない。
- ④ フラッグシグナル（ボールイン、ボールアウト、ボールコンタクト、サー
バーのフットフォルト等）のみ使用し、それをしばらくの間続けなければな
らない。
- ⑤ フラッグシグナルを出す場合（ライン判定をしっかりとってから）、身体とフ
ラッグはラインに向け、顔だけをファーストレフェリーの方に向けて目をあ
わせ判定を伝えることが、お互いの信頼関係を保つ上でも非常に大切であ
る。

3. 試合後

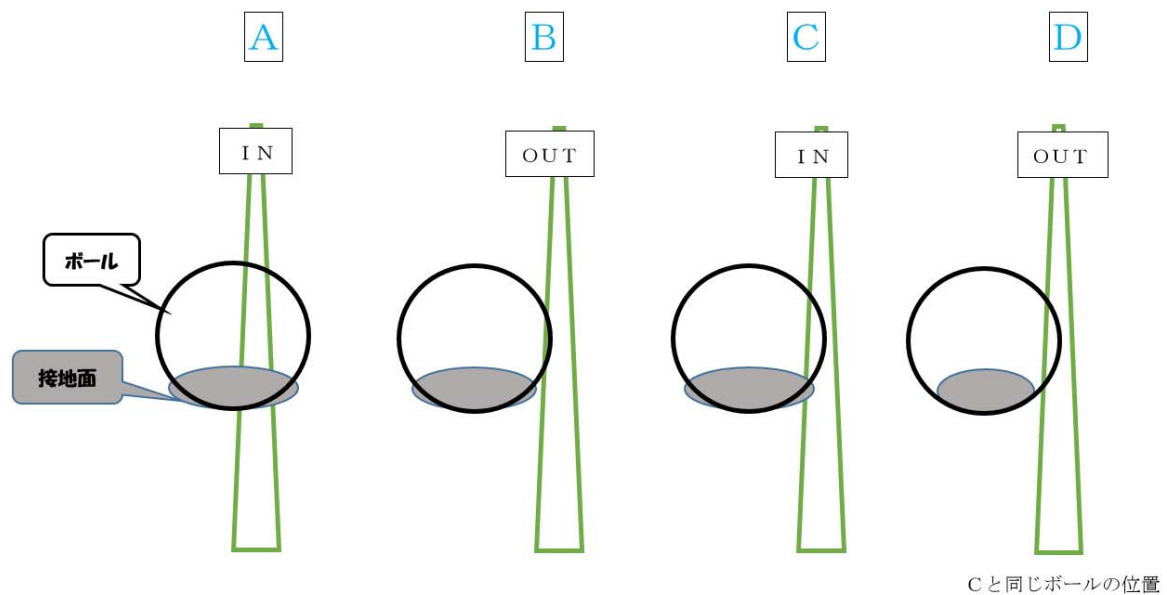
- (1) 試合が終了したら、スコアラーズテーブルの後方に集合し、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラー、アシスタントスコアラーと握手をする。
- (2) レフェリールームでファーストレフェリー・セカンドレフェリーからアドバイスを受けると良い。
- (3) 審判委員長より試合全体を通してのラインジャッジの任務についてアドバイスを受けること。
- (4) 最後にお互いにディスカッションをすること。

『ラインジャッジの判定の仕方』

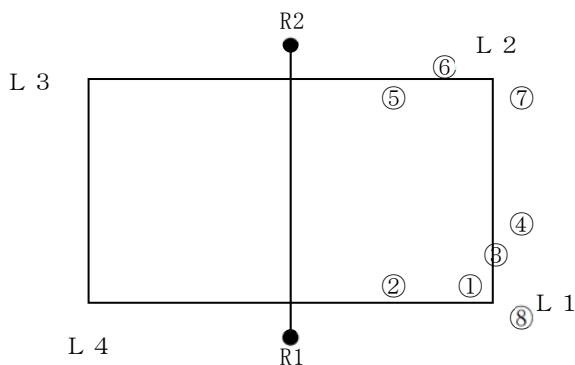
1. ラインに関する判定(ボールイン, ボールアウト)

- (1) ボールがライン付近に落下した場合は、そのラインを担当するラインジャッジだけがシグナルを出す。(1人1線が原則で「ボールイン」はライン2 m以内とする)。各コーナーのコートに落ちた場合は2人のラインジャッジがシグナルを出す。《下図3参照》
- (2) ボールがインか、アウトかボールコンタクトかの判定は、速やかにシグナルを示さなければならないので、判定は躊躇してはいけない。シグナルが遅れると選手がアピールをする原因となる。
- (3) イン, アウトの判定は、最初はボールを見て、ボールが床近くに來たらボールから目を離し、ラインを見て判定をする。

《図2》『ボールと床の接点』 ※ラインの右側がコート



《図3》『コーナーのボールイン, ボールアウトの判定』

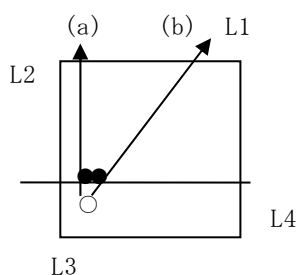


- | | |
|------|----------------------------|
| ボール① | L 1, L 2 が判定 (コーナー 2 m 以内) |
| ボール② | L 1 が判定 |
| ボール③ | L 2 が判定 |
| ボール④ | L 2 が判定 |
| ボール⑤ | L 3 が判定 |
| ボール⑥ | L 3 が判定 |
| ボール⑦ | L 2 が判定 |
| ボール⑧ | L 1, L 2 が判定 |

2. ボールコンタクトの判定

- (1) ボールコンタクトを認めた場合は、フラッグをあごの下でやや高めに旗を立てて旗の先を別の手で触れる。スパイクボールがコート内に落ちた場合は、ボールインのフラッグシグナルを出す。
- (2) ラインジャッジの任務は、まずライン判定である。ブロックのボールコンタクトに集中しすぎることなく、ボールより先にラインに目をやり、正確に担当ラインの判定を行う。
- (3) レシーバーにボールが触れコート外に出た場合は、担当ラインとレシービングサイドのラインジャッジがボールコンタクトを示す。
- (4) ボールがブロッカーに触れコート外に出たことが明らかな場合は、レシービングサイドのラインジャッジと担当ラインのラインジャッジのみがボールコンタクトを示す。またスライスタッチでブロッカーにボールが触れコート外に出た場合は、ボールのコースによって、下記の要領で担当ラインジャッジがフラッグシグナルを示す。

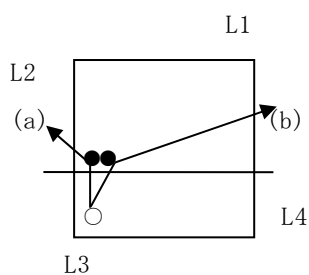
① ボールがブロッカーに触れてエンドライン外後方に出た場合



(a) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

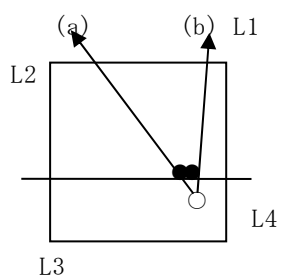
② ボールがブロッカーに触れてサイドライン外後方に出た場合



(a) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L3がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

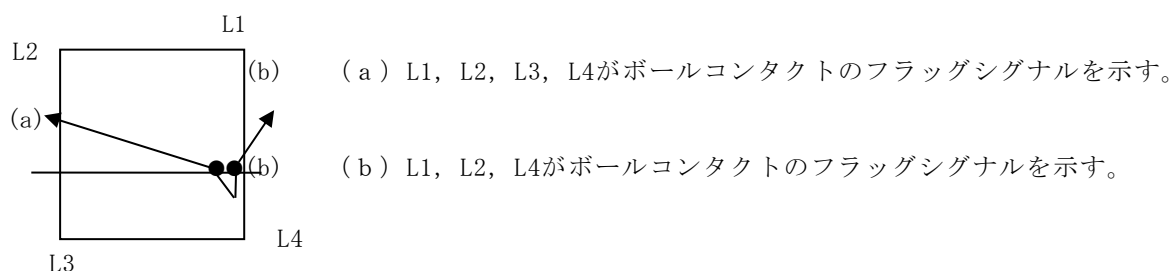
③ ボールがブロッカーに触れてエンドライン外後方に出た場合



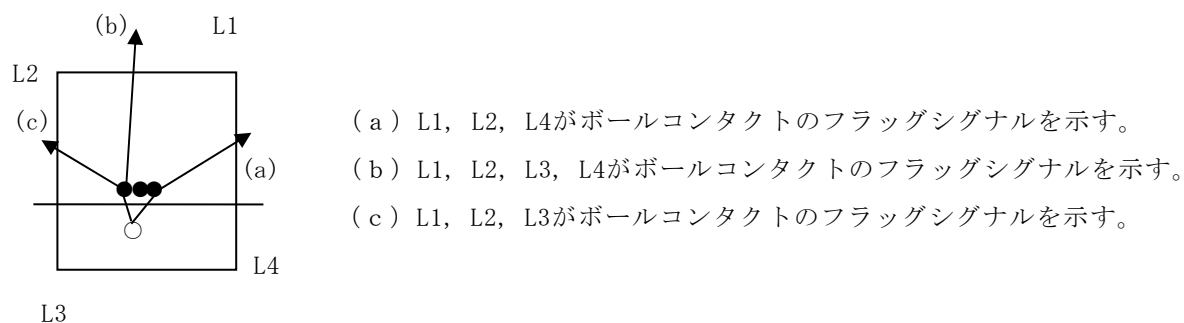
(a) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

(b) L1, L2, L4がボールコンタクトのフラッグシグナルを示す。

④ ボールがブロッカーに触れてサイドライン外後方に出た場合



⑤ コート中央からのボールがブロッカーに触れてコート外に出た場合



3. ボールが床に触れたかどうかの判定

- (1) パンケーキのプレーで、自コートの床にボールが触れたことが確認できた場合は、ラインジャッジがシグナルを示す。
- (2) フラッグシグナルは、ボールインのフラッグシグナルではなく、身体の前で、2・3回床をたたくシグナルで示す。

4. サーバーのフットフォルトの判定

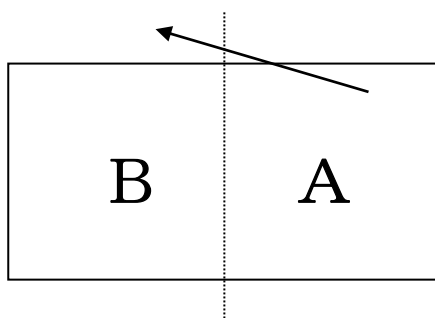
- (1) サーブを打つ瞬間の足の位置、及びジャンプサーブなどで踏切る足の位置がサービスゾーン外やコート内であれば反則となる。その判定はエンドライン担当のラインジャッジが判定しサイドライン側であれば、サイドライン担当のラインジャッジが判定をする。
- (2) フラッグシグナルは、頭上で旗を左右に1往復振り、片方の手でラインを指す。

5. アンテナ付近を通過したボールの判定

アンテナ付近をボールが通過する場合は、そのコースに対応するラインジャッジが、判定をするのが望ましい。その際、自分が担当するラインの判定に支障のない範囲（1，2歩）で動いて、ボールとアンテナの位置を確認し判定を行う。

（1） 許容空間外（アンテナの外側または上方）を通過した場合

① ボールがフリーゾーンやフリーゾーン外に落ちたとき。



a：チームの1回目・2回目の接触後の場合

ファーストレフェリー：落ちた瞬間にホイッスルをする。

セカンドレフェリー：ホイッスルをしない。

ラインジャッジ：落ちた瞬間に「アウト」を示す。

b：サービスボールまたはチームの3回目の接触後の場合

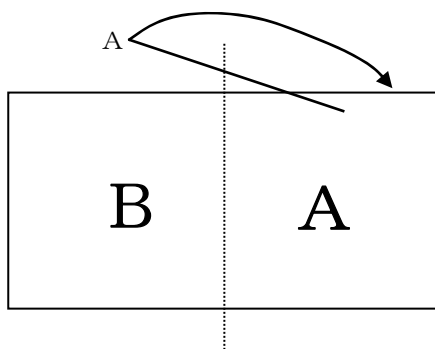
ファーストレフェリー：ネットの垂直面を通過した瞬間に
ホイッスルをする。

セカンドレフェリー：〃

ラインジャッジ：ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を
示す。

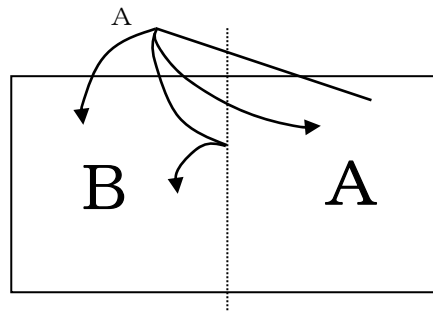
② Aの選手がボールに触れたとき。

a：許容空間外を通過してボールを取り戻したとき



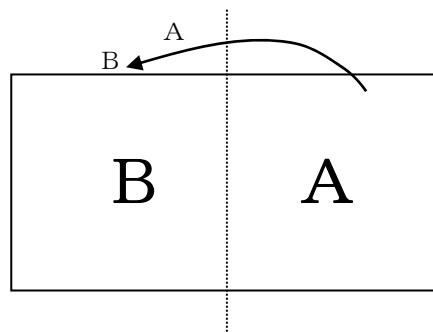
ファーストレフェリー：ホイッスルをしないでラリーを続行する。
セカンドレフェリー：〃
ラインジャッジ：フラッグシグナルは示さない。

- b：ボールが許容空間内を通過したとき。また、ボールがアンテナの内側のネットに触れたり、床に触れたりしたとき。



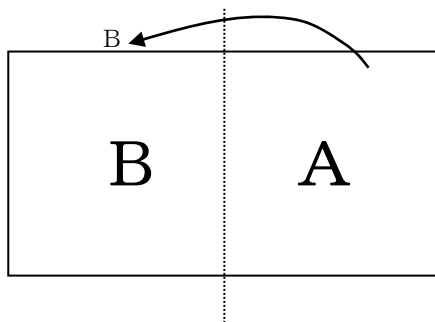
ファーストレフェリー：サイドライン上を完全に通過した瞬間にホイッスルをする。
セカンドレフェリー：〃
ラインジャッジ：サイドライン上を完全に通過した瞬間にフラッグを振る。(一往復)

- ③ ボールがアンテナの真上や外側を通過してBチームの選手に触れたとき。
a：Aチームの選手がボールを追いかけている場合、Bチームの選手のインターフェアとなる。



ファーストレフェリー：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にホイッスルをする。
セカンドレフェリー：ホイッスルをしない。
ラインジャッジ：Bチームの選手がボールに触れた瞬間にフラッグを振る。(一往復)

b : Aチームの選手がボールを追いかけていない場合

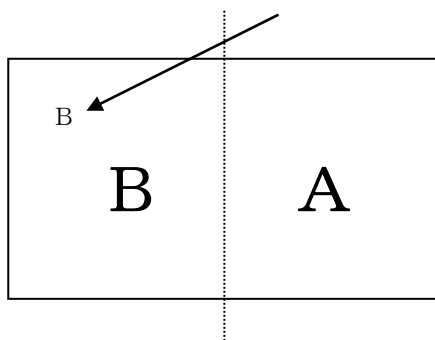


ファーストレフェリー：Bチームの選手がボールに触れた瞬間に
ホイッスルをして、Aチームのアンテナ外
通過でボールアウト。

セカンドレフェリー： //

ラインジャッジ：フラッグを振る。(一往復)

(2) Aチームのフリーゾーンから許容空間外（アンテナ上方を含む）を
通ってBチームのコートに向かっていく場合。

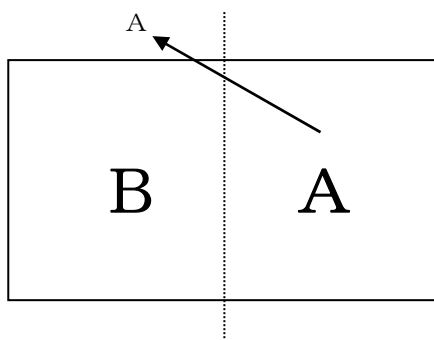


ファーストレフェリー：ネットの垂直面を通過した瞬間に
ホイッスルをする。

セカンドレフェリー： //

ラインジャッジ：ネットの垂直面を通過した瞬間に「アウト」を
示すか場合によっては、フラッグを振る。

- (3) Aチームのコートから許容空間を通過してBチームのフリーゾーンに向かって行く場合。



a : Aチームの選手がボールに触れたとき。

ファーストレフェリー：触れた瞬間にホイッスルをする。

セカンドレフェリー： //

ラインジャッジ：触れた瞬間にそのコースのラインジャッジがフラッグを振る。(一往復)

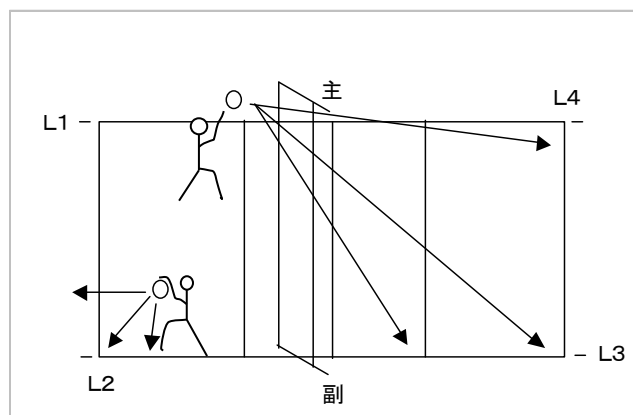
6. トレーニングマニュアル

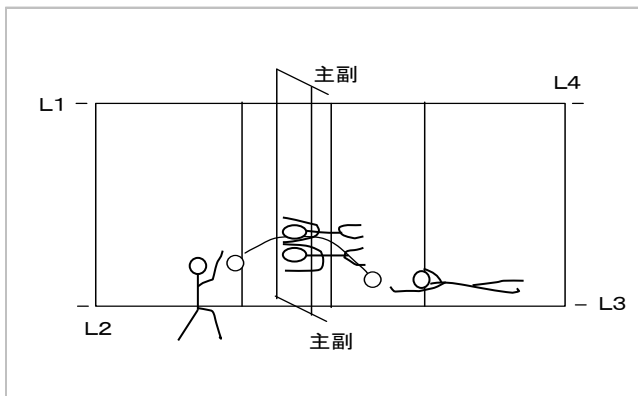
- (1) レシーブボールが床に触れたかどうか

- ① ファーストレフェリー・セカンドレフェリーのアシストをしなければいけないので、低い姿勢でボールと床面との接点を見る。ボールが床面に触れた瞬間にフラッグシグナルを出す。
- ② タイミングが遅れ躊躇すると、選手のアピールのもとになるので十分注意すること。

★ライン判定

- a サイド，エンドラインにぎりぎりに打つ
- b コーナー(1m 以内) に打つ
- c 選手でボールが見えない時の判定



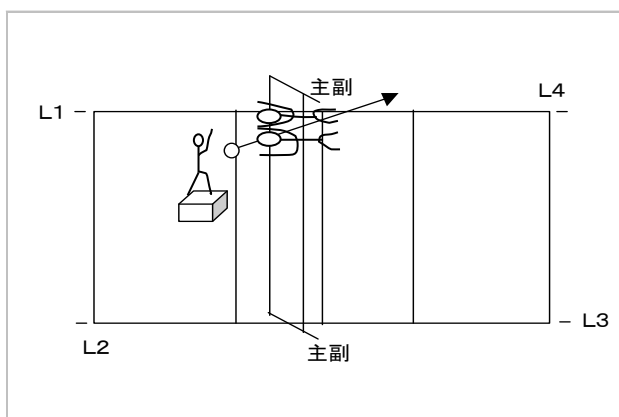


★床に落ちたボールの判定

- a フェイントボール・tip playをフライングレシーブで手の甲でボールを上げる。
- b ブロックカバーのプレイヤーの陰になってプレーが見えないケース。

(2) アンテナ付近をボールが通過する場合について

- ① 確認できたラインジャッジのみがシグナルを出す。
- ② ネット幅 1 m の間のアンテナに当たった時は、一番見やすい位置にいるラインジャッジが判定すべきである。

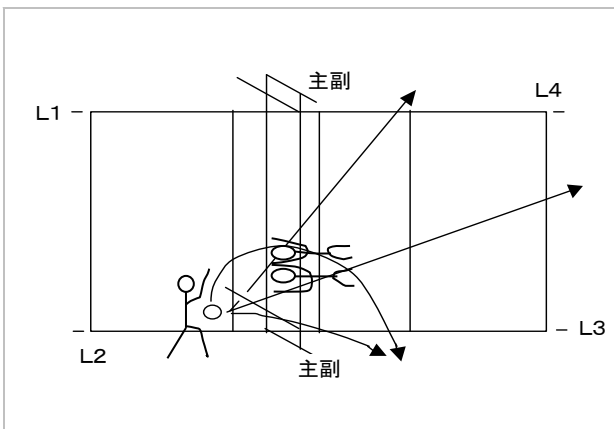


- ★ボールがアンテナに当たるケース
- ★ブロッカーがアンテナに触れるケース

- a 台上よりスパイクを打つ。
- b アンテナぎりぎりに打つ。
- c アンテナ外を通過するボールを取り戻すケース

★アンテナ外通過ボールを色々な角度から取り戻す。

★ボールの角度によって、どのラインジャッジがライン判定をおろそかにしないで、どのように動いたらいいのかを確認する。



※ ラインジャッジの動きに十分注意すること。ボールのコースに入るために、極端に動いてライン判定がおろそかになったり、またコースに入らないで判定すると不信感をもたれたりするので動く範囲を十分に確認する必要がある。

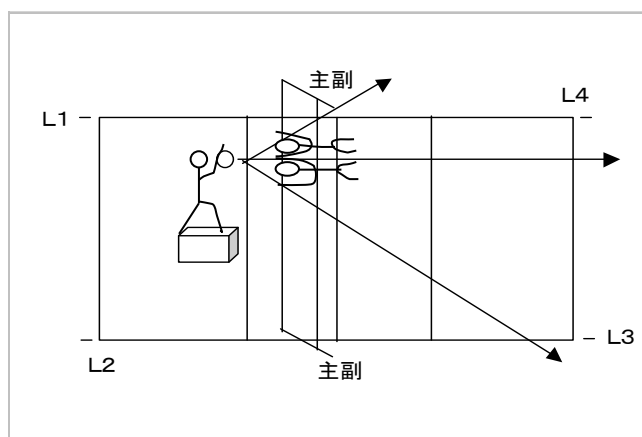
※ 取り戻されたボールが許容空間内を通過した場合は、フラッグを左右に振る。

(3) ブロッカーとレシーバーのボールコンタクトについて

- ① 特にブロッカーの上（指）をかすっていくケースや左右をかすっていくケースは、ファーストレフェリー・セカンドレフェリーからは非常に見にくいケースもあるので、原則的にはレシーブ側の2人のラインジャッジがフラッグシグナルを送る。しかし4人のラインジャッジが明らかにボールコンタクトを確認できた場合は確認したラインジャッジが、ボールコンタクトのフラッグシグナルを送る。
- ② アンテナ付近、特にセカンドレフェリーサイドでのアタッカーが意識してタッチアウトを狙うプレーのブロックのボールコンタクトはしっかりと見る。
- ③ スパイカーがボールをスパイクして、ブロックにはねかえったボールが、そのスパイカーに当たった場合
・特にファーストレフェリーサイドで起こるケースは、ファーストレフェリーの死角になるケースが多いので担当のラインジャッジはしっかりと見る

★ブロッカーとレシーバーの ボールコンタクト

- a 台上よりスパイクを打つ。
- b ボールがブロックの上をかすめるケースと左右をかするケース。
- c ライン際のレシーバーのボールコンタクトもファーストレフェリーの死角になるケースがあるので、ライン判定も十分注意しながら、視野に入れてみる大切である。



ビーチバレーボール補足資料

(前述に加え、ビーチバレーボール特有の責務及び判定を付記)

『ラインジャッジの責務』

1. 試合前

(1) 服装

- ① レフェリーウェアもしくは、支給された大会ポロシャツ，キャップ，ハーフパンツ（支給がない場合は，全員が揃う服装が望ましいが，揃わない場合は，同系の服装でも可能）を着用し，運動靴と靴下を履く。
- ② サングラスの着用も可能。

(2) 第1試合は，試合開始20分前に，事前に指示された場所に集合する。

(3) 第2試合以降は，前の試合の1セット目終了後，事前に指示された場所に集合する。

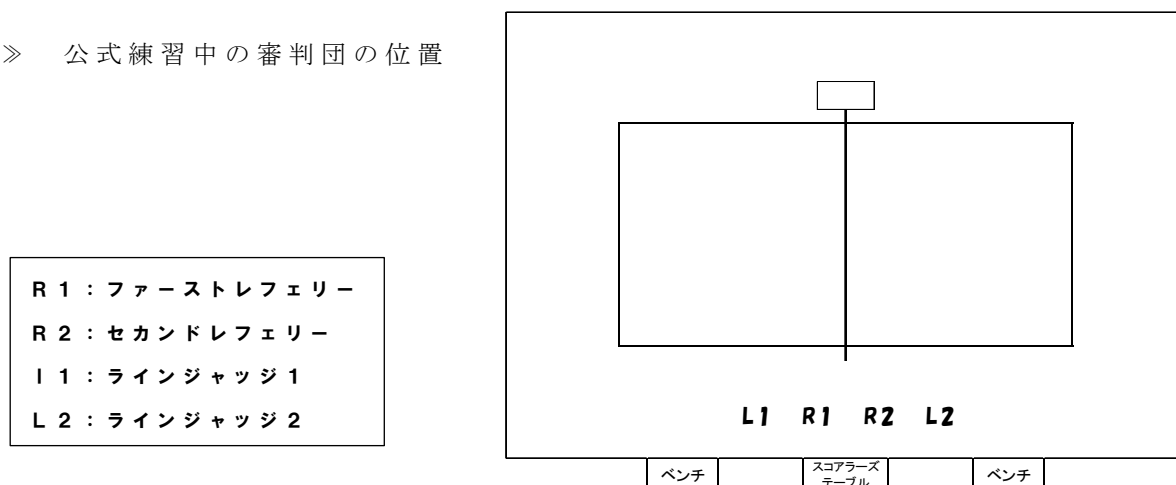
(4) 事前にフラッグとサングラス拭き用のタオルを確認し，マッチプロコール時にはタオルをハーフパンツの中（利き腕と反対側）に目立つようにつける。（ポケットの中にはしまわない）

(5) マッチプロコール中は，スコアラーステーブル前に整列する。《図1参照》
（4人の場合はL1・L2・ファーストレフェリー・セカンドレフェリー・L3・L4という位置で整列する。）

(6) 公式練習終了後，ファーストレフェリーがレフェリースタンドに向かうタイミングで競技エリア内の所定の位置につく。
（4人の場合は，L1・L2とL3・L4が一行に並んで所定の位置に向かう。）

(7) サンドレベラーがレーキをかけた後に，担当ライン上の砂を落とし，ラインの状態，アンテナ，サイドバンドに歪みがないか確認する。

《図1》 公式練習中の審判団の位置



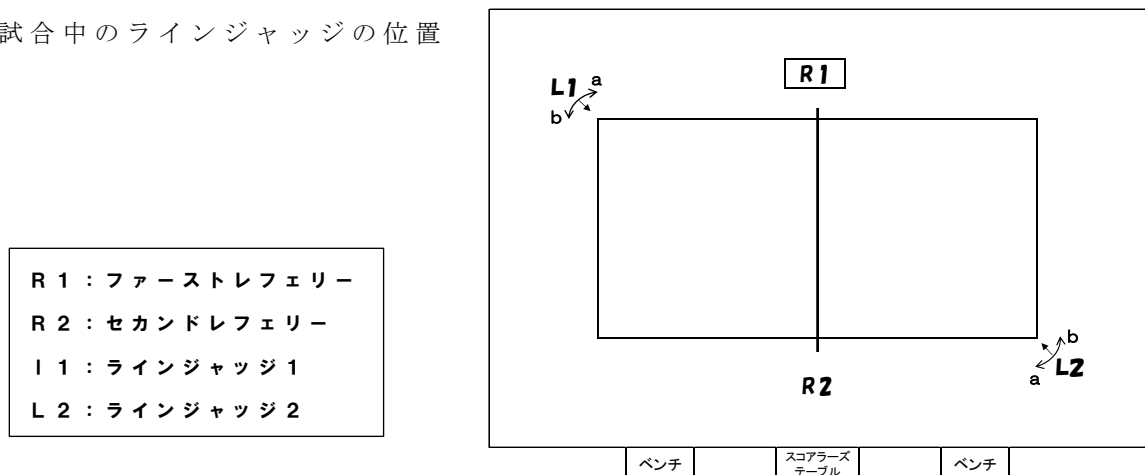
2. 試合中

(1) インプレー中のラインジャッジの位置

① ラインジャッジが2人の場合《図2参照》

- ・ファーストレフェリーとセカンドレフェリーの右側コーナーから、1 m離れた対角線の位置に立つ。
- ・それぞれ自身側のエンドラインとサイドラインの両方を統御する。
- ・ボールが向かってくる方向によって、位置を変えて判定する。(左右1歩程度) エンドラインを判定するときは、aへ移動し、サイドラインを判定するときは、bへ移動する。
- ・自身側からの攻撃の場合には、原則としてbへ移動し、サイドラインの判定を中心に行う。
- ・自身側チームのサービスの際には、aへ移動し、フットフォルトの有無に注意する。

《図2》試合中のラインジャッジの位置



② ラインジャッジが4人の場合（6人制・9人制と同じ）

- ・自分の担当するラインの想像延長線上でコートの各コーナーから2 m 離れ、ラインを身体を中心に置き、視線はライン上に置くようにしてフリーゾーン内に立つ。
- ・エンドラインはライトサイドのコーナーから「L 2」・「L 4」が、サイドラインはレフトサイドのコーナーから「L 1」・「L 3」が統御する。

(2) アウトオブプレー中や試合中断中の位置や動き

- ・ラリー終了時には、担当ラインの歪みやラインにかかる砂の凸凹を確認し、必要に応じて素早くライン及び砂の状態を修正する。
- ・風でラインが揺れる場合には、ラリー終了時にライン上に拳大の砂山を作りラインの揺れを止める。もしくは、状況に応じて運動靴でラインの上を左右にスライドさせて、ラインと砂(地面)との凸凹を少なくする。
- ・アウトオブプレー中には、選手がサングラスを拭くためにラインジャッジが持つタオルを使用する場合があるため、選手が寄ってきた際には、速やかにタオルをハーフパンツから取り、選手に渡す。

- ・タイムアウトやT T O，セット間は，サイドライン後方のフリーゾーン際まで（ラインの歪み等を確認しながら）コート側を向いた状態で下がり，自然体でリラックスした姿勢で待つ。（広告バナーがある場合には，文字等を隠さないようバナー間に立つ）その際，水分補給を行う場合には，フリーゾーンコーナー外側に置いてある各自の飲料にて速やかに水分補給を行う。
- ・サンドレベラーがライン上にレーキをかけた後は，各コーナーに移動し，2人のラインジャッジでサイドライン上，その後にそれぞれがエンドライン上の砂を落とし，ラインを真っすぐにする。4人の場合には，「L 1」と「L 4」，「L 2」と「L 3」でサイドライン上を，次いで「L 1」と「L 2」，「L 3」と「L 4」でエンドライン上の砂をそれぞれ同時に落とし，ラインを真っすぐにする。

3. 試合後

- （1）レフェリースタンドの左右（ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの外側）に整列し，選手・各レフェリーと握手をする。
- （2）ファーストレフェリー・セカンドレフェリーの後についてスコアラーズテーブル側に戻り，フラッグ，タオルをたたみ，スコアラーズテーブルに置く。

『ラインジャッジの判定の仕方』

1. ラインに関する判定（ボールイン・ボールアウト）

- （1）2人の場合，イン，アウトの判定はライン正面に移動して行うことが望ましい。しかしながら，ボールの速度が速く，ライン付近に落下する前に正面に移動できない場合には，移動することよりも静止して判定することを優先し，イン，アウトの確認を行ってから，フラッグシグナルを行う際に，ライン正面に移動する。
- （2）ラインにボールが接触すれば，ボールインの判定をする。
- （3）ラリー中，風や選手のプレー中の動きによって正常ではない位置にラインが動いた場合，たとえ大きく曲がっていても，ラインを基準にボールイン・アウトを判定する。また，ファーストレフェリーの最終判定が終わるまでラインの修正は行わない。
- （4）ファーストレフェリーがボールマークプロトコールを宣言した時は，ラインにボールが接触したか，接触しなかったかを明確に口頭で伝え，フラッグ等でボールの落ちた位置を指さない。※ファーストレフェリーが最終判定をしたあと，ファーストレフェリーとアイコンタクトをとりボールマークを消す。

2. ボールコンタクトの判定

自身側チームのブロックにおけるボールコンタクト（自身側チームサイドにボールが入る場合）は，確実に見えた場合に限りラリー中もファーストレフェリーが確認できるように（2秒程度）フラッグシグナルを示す。